序

興福寺は、平成22年（2010）に創建1300年を迎える。この記念すべき年が視野に入ってきた平成３年より、当山では学識経験者各位からなる興福寺境内整備委員会を設置し、きわめて雑然とした印象の境内を整備し、可及的に創建当初の典雅な景観を再構築するべく、種々の問題を検討していただいている。

平成９年６月、当山は、その成果である境内整備構想の概要を発表し、さらにそれを成文化して、同10年２月に『興福寺境内整備構想』として刊行した。これは、当山の今後数十年にわたるであろう境内整備事業についての基本方針を世に問うたもので、概ね好感をもって受け止められたと理解している。

こうした基本構想に基づき、平成10年度から同19年度までの10年間を境内整備事業の第１期とし、去る平成10年10月、奈良国立文化財研究所のご協力により中門跡の発掘調査に着手して境内整備事業をスタートさせた。

今回の発掘調査により、中門の建物や基壇の規模あるいは回廊取付き部分の解明など、学術的に貴重な知見を得た。本書は、それら発掘調査の概要を報告するものである。

平成11年９月

興福寺貫首　多 川　俊 映